

平成 27 年度事業報告書

学校法人 箕面自由学園

1 設置する学校及び学則定員、在籍者数の状況（平成 27 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

	高等学校	中学校	小学校	幼稚園
学則定員	1,440	240	420	280
在籍者数計	1,413	149	225	256
男子	723	82	133	147
女子	690	67	92	109
1 年	474	48	19	84
2 年	487	48	27	87
3 年	452	53	41	85
4 年			42	
5 年			42	
6 年			54	

※幼稚園の年少組は 1 年欄に、年中組は 2 年欄に、年長組は 3 年欄にそれぞれ表示

※幼稚園の満 3 歳入園児は、1 年欄に含む

2 学費等（平成 27 年度在校生）

	内 容	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
高等学校	検定料	20,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	546,000	546,000	546,000			
	施設費	36,000	36,000	36,000			
中学校	検定料	16,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	546,000	546,000	546,000			
	施設費	36,000	36,000	36,000			
小学校	検定料	15,000					
	入学金	220,000 (110,000)					
	授業料	474,000	474,000	474,000	474,000	474,000	420,000
	施設費	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000

幼稚園	申込料	3,000	3,000	3,000			
	入園金	110,000	100,000	90,000			
	保育料	288,000	276,000	276,000			

※授業（保育）料および施設費は年額表示

※入学金欄の()内は、内部進学者適用額

※幼稚園の年少組は1年欄に、年中組は2年欄に、年長組は3年欄に表示

3 役員に関する事項（平成28年3月31日現在）

理事定数 12～17名 現員 14名

監事定数 2名 現員 2名

4 評議員会・理事会の開催状況

	評議員会	理事会
第1回	平成27年 5月27日	平成27年 4月8日
第2回	平成27年 12月9日	平成27年 5月27日
第3回	平成28年 3月9日	平成27年 6月10日
第5回		平成27年 7月8日
第6回		平成27年 9月9日
第7回		平成27年 10月14日
第8回		平成27年 11月11日
第9回		平成27年 12月9日
第10回		平成28年 1月13日
第11回		平成28年 3月9日

※桂門懇談会（拡大評議員会） 9月9日

5 教職員数（平成27年5月1日）

（単位 人）

	人員	専任	常勤	非常勤
合計	238	105	55	78
教育職員	169	86	41	42
高等学校	111	51	26	34
中学校	15	10	2	3
小学校	22	14	6	2
幼稚園	13	8	5	0
本部	8	3	2	3
事務職員等	69	19	14	36
高等学校	14	1	4	9

中学校	3	1	1	1
小学校	11	1	0	10
幼稚園	10	0	0	10
本部	31	16	9	6

※アルバイトは、非常勤欄に表示

6 事業の概要

(1) 平成 27 年度 施設・設備（主な新設・改修・設置等）

- * 高校、大体育館耐震補強工事（平成 27 年 8 月 31 日竣工）

事業目的

新建築基準法に伴い、昭和 56 年以前（昭和 52 年 3 月竣工）の建築物で旧耐震基準の為、耐震補強工事を行った。

改修費用

投資額 59,454,000 円（資産 58,953,000 円 経費 501,000 円）

- * 倉智記念館耐震補強工事（平成 27 年 8 月 31 日竣工）

事業目的

新建築基準法に伴い、昭和 56 年以前（昭和 45 年 5 月竣工）の建築物で旧耐震基準の為、耐震補強工事を行った。

改修費用

投資額 28,890,000 円（資産 27,440,000 円 経費 1,450,000 円）

(2) 高等学校の教育充実

平成 27 年度の入学者は募集定員の 480 名に近い 475 名であった。これは高等学校全体の取り組みへの外部評価が定着してきたものと考えられる。

挨拶、ルールの遵守、マナーの向上を念頭に置いた生徒指導、進学への取り組みと実績、クラブ活動への取り組みと実績等、生徒、保護者の満足度の高まりが外部評価につながり、本校への受験者増につながったと思われる。

高校 3 学年の在籍者 1413 名の一人ひとりが、愛校心を持ち、「本校の生徒であること」にプライドを持てるように、教職員一丸となって、取り組んでいく必要がある。

- (イ) 4 つのコースがそれぞれの特徴を活かし、取り組みを強化していった結果が出てきているように思われる。

進学実績としては、京都大学 1 名、大阪大学 3 名、神戸大学 1 名と京阪神大学に合格したのをはじめ、国公立大学に 21 名（全員現役合格）、いわゆる関関同立に 105 名合格した。これはいままでの取り組みが定着していき、教師側にも確実にノウハウの蓄積が出来てきたように思われる。

スーパー特進コースからだけでなく、特別進学コースからも、大阪大学を始めとする難関国公立大学、同志社、関学などの難関私立大学への合格が増加してきている。

総合進学コースも、推薦入試への依存的体質から脱却し、一般入試へ向けての取り組みの強化を図ってきた。その結果、大阪大学1名、立命館大学、関西大学などの難関私立大学の合格も増加傾向にある。

クラブ選抜コースは、それぞれの強化クラブが日々の継続的な努力の結果、輝かしい実績を出してきている。

- (ロ) 理事会の強い方針通り“マナー”教育を全ての教育の原点とし、挨拶・言葉づかい・身だしなみ・ルール厳守の徹底に努め、その成果が目に見える形で表れてきた。今後とも、極めて上質の“普通の学校”に向けた“しつけ”教育を継続する。

(3) 中学校の教育充実

早朝テストを主要5教科について週5日間実施して、それを放課後のフォローアップA(補習)と連動を図ったこと、また定期考査後にフォローアップBを実施したことは、学力の基礎基本の徹底と充実のために大きな役割を果たしたといえる。

また、英・数・国の3教科で展開する教科別の習熟度別クラス制(英数=3レベル・国=2レベル)と、週3回実施した個々の生徒の学力に応じた英・数の特別講習は、生徒のより高い学力を培い、進路選択の可能性をひろげる教学システムとして確立しているが、今後、さらなる工夫を加えて、発展と補習の両面でより成果を上げるシステムへと改善を加えていく予定である。

また、3年生の進路保障の一環として8月の夏期講習を一週間にわたり実施して、受験学力の教化を図った。

そして、クラブ活動においては、強化クラブであるチアリーダー部は、関西大会準優勝、つづく日本選手権大会でも健闘した。また、テニス部は豊中中学校大会の1年男子ダブルスで準優勝、豊中市中学校総体では、男子・女子ダブルスで各学年のペアがそれぞれベスト4、女子団体でもベスト4に入った。さらに、アメリカンフットボール部がNFLFLAG中学生女子日本選手権大会準優勝、滋賀県フラッグフットボール選手権中学生の部準優勝、NFLFLAG 秋季関西大会中学生の部リーグ1位、バドミントン部では豊中市中学校総体男子シングルス優勝など多くの実績を積み重ねた。

その他、サッカー部・野球部・書道部・園芸部・美術同好会など生徒主体で活発に活動した。

(4) 小学校の教育充実

今年度より、1年生から授業に「思考表現」の時間を設置。学年ごとの発達に合わせて、楽しみながら自分で考え、友だちに伝える実践的な課題をかす「思考表現」の時間を6年間通して実施。すべての学びの基礎として生きる力を育成し、身につけた「考える力」「伝える力」を使い、各教科での学びをさらに広げ、深めていくように努めてきた。

特に平成27年度は、年間を通して学年ごとに授業研究会を実施し、2月には研究発表会を実施した。教師力の向上を目指すとともに、児童理解を深めるために、一人ひとりにつながる手立てを工夫し、家庭との連携を大切にして、きめ細かな教育実践を継続してきた。また、文部科学省が国をあげて取り組むのに先駆けて、以下の二点をすでに取り組みとして始めた。

- ① 英語科の充実を目指し、文部科学省・中央教育審議会の動きとして、5・6年の英語の教科化が予定されている。中学2年程度までのグラマーもカリキュラムに盛り込んで、第二言語

として確かに使える実用的な英語の習得と実践力を育成してきた。

- ② 放課後のアフタースクールを最大午後7時まで、本校専属の職員が運営して実施。学校の宿題保障、学習補充や他の課外活動との連携といった学習面での学校との連続性をもたせている。調理・音楽・キャンプなど多彩な活動を行って保護者から好評を頂いた。このような取り組みや改善を図ることで、児童の定員確保を目指す中で、児童数もわずかに増える方向には繋がった。

さらに教育内容として、今後、入試制度の改革によって、これから子どもたちに特に重要となる学力として「思考力・表現力」の育成が求められる。書くことはすなわち考えることである。そこで授業では、言葉を使って考える機会を増やし、考えるためのすべを学ぶことも重視していく。このことが、「説明力」「対話力」「報告力」「記録力」「要約力」など将来に生きて働く言葉の力を育てると考えている。このような取り組みや改善を図ることで、定員の児童確保を目指し満足感のある小学校にしていきたい。

(5) 幼稚園の教育充実

幼稚園・保育園の一元化が進行するなかで、幼児期の子どもたちに、ますます教育的な内容での取り組みが求められている現状にあると思える。本園においては、子どもたちのより豊かな成長を促すことができるように、その活動の内容を吟味しながら保育活動を行ってきた。

子どもたちの成長の条件の一つに、集団での活動があるが、同年齢での活動集団を基盤にしながらい年齢集団での活動を重視してきた。年少、年中、年長の間はもちろんのこと、プレイルームや小学校一年生との交流やふれあいを大切にして、相互にかかわり合うなかで自らの成長が生まれるように、その活動内容に工夫をこらした。

また、本園の基本となっている体験活動について、菜園や果樹園での土と関わる活動を取り入れ、サツマイモやジャガイモの栽培と収穫を通して自然に親しんだり、英語等の異文化とのふれあい、誕生会をはじめとして多様な文化芸術鑑賞の体験を積み重ねてきた。

さらに、今日ますます保護者の間で要望の強まっている「預かり保育」は、保育日程や時間を拡大して家庭の子育て支援に寄与できるように考えた。また、プレイルームは2クラスを運営してきた。

7 当期の業績（財務状況）

(1) 資金収支の状況

高等学校では1年生が475名となり、前年度と比べて学生生徒等納付金収入と授業料に対する補助金の合計額では11百万円の減収となった。中学校、小学校の学生生徒等納付金収入は減収、幼稚園は増収となり、学園全体の授業料関係の補助金を含む学生生徒等納付金収入は40百万円の減収であった。

人件費については、高校の生徒数増による教員増や退職金の増加により、109百万円増となった。その他の経費については、維持修繕費の抑制などで予算額内の執行にとどめ、収支均衡に努めた。

施設・設備関係支出では、大体育館耐震補強工事、倉智記念館耐震補強工事、教務シス

テム導入等があったが、施設拡充引当特定預金を有効活用した。

(2) 消費収支の状況

帰属収入は、1,987百万円となり、前年度比0.7%増となった。

基本金については、施設・設備の充実により第1号基本金を240百万円組入れた。

その結果、消費収入合計額は、1,747百万円となり、前年度比4.3%減となった。

消費支出は、1,943百万円となり、前年度比0.3%減となった。

当年度帰属収支差額（帰属収入合計金額－消費支出合計金額）は、44百万円の帰属収入の超過となった。

引き続き、児童生徒の安定的確保と、支出における経費の有効的な活用により、更なる財務の健全化を図っていく。

8 資産総額（登記事項）

平成27年3月末日の資産総額は、53億7205万7265円（平成27年6月16日登記）であり、対前年比2465万6503円の増額であった。

9 施設関係（平成28年3月31日現在）

(1) 校地

（単位 m²）

	合 計	高等学校	中 学 校	小 学 校	幼 稚 園
運動場敷地	20,669	9,279	4,676	4,349	2,365
建 物 敷 地	28,546	19,211	1,146	6,306	1,883
合 計	49,215	28,490	5,822	10,655	4,248

(2) 校舎

（単位 m²）

	合 計	高等学校	中 学 校	小 学 校	幼 稚 園
校 舎					
建築面積	7,852	4,563	866	1,451	972
延床面積	17,870	11,737	1,685	3,033	1,415
体育練習場					
建築面積	3,965	3,965	0	0	0
延床面積	6,486	6,486	0	0	0
合 計					
建築面積	11,817	8,528	866	1,451	972
延床面積	24,356	18,223	1,685	3,033	1,415